2025年度 事業計画

一般社団法人 軽金属溶接協会

2025年度 事業計画書

一般社団法人軽金属溶接協会

会長 廣瀬 明夫

2025 年度は、当会の母体であった「軽金属溶接技術会」が 1962 年(昭和 37 年)に設立されてから満 63 年となります。その間、「軽金属溶接技術会」は、1975 年(昭和 50 年) 10 月 14 日に社団法人の認可を得て「社団法人軽金属溶接構造協会」と改称し、アルミニウム溶接技術検定・認定業務を継承しました。併せて、軽金属の溶接・接合技術の向上及び軽金属構造製品の品質、性能の高度化を目的に活動してきました。その後、2008 年(平成 20 年)に公益法人法が改正され 2017 年(平成 29 年)1 月に内閣府より移行確認書を受理し「一般社団法人軽金属溶接協会」として、従来の事業を継承しつつ新たなる出発となり、今日に至っております。

2023年5月に新型コロナウィルス感染症が5類に移行後、社会の動きも日に日に落ち着きを取り戻しております。しかしながら、米国のリーダー交代、ウクライナ情勢、中東情勢、中国経済の陰り、そして特に円安によるエネルギー価格や物価の高騰など、先行きに予断を許さない状況で迎える2025年になりました。

当協会の事業では、溶接技能試験の受験者数が三年連続5%以上、大幅に減少しています.鉄鋼の溶接資格を持っている方で、アルミニウムの溶接資格を持っていない方の掘り起こしを県溶接協会の協力を得て実施します.また、県教育訓練施設及び検定試験会場として利用している厚労省所管施設の在職・離職訓練者の受験取込みを行い、受験者数の増加を目指します.溶接技術講習会、溶接管理技術者講習会は、ほぼコロナ禍前の受講者数に戻りましたが、まだまだ、協会をとりまく産業、経済は非常に厳しい状態です.軽金属溶接業界をより発展させるためには同じ志を持つ仲間を増やし、活発な活動を維持継続する必要があります.今年度は、資格認証者を多く保有している企業様へ団体会員入会へのお誘いも実施します.

コロナ禍においても皆様のご理解を得て継続してきました「全国軽金属溶接技術競技会」は、昨年 10 月に節目である第 50 回大会を開催し、全国からの過去最高 63 名がエントリーしました。当日は諸 事情で 60 名となりましたが、日ごろ磨いた技を競う雄姿を見せていただきました。今年度は、第 51 回 大会になります。全国のトップを目指して多くの参加をお願いします。

2025 年度は第3次中期計画の最終年度です.昨年,事務局組織も変わり,計画の見直しを行い,活動してきました.大目標を市場の拡大とし,「技術・技能の高度化」,「構造設計での接合ニーズの明確化」,「DX」そして「持続可能な協会運営」で,達成を目指していきます.

ものづくりの基盤は人です。まず、製造側の技能・技術者の育成が必要と考えます。企業間及び技能者の交流や溶接施工及び管理技術を指導する人材育成を継続することで、軽金属溶接技術の鍵となり、市場拡大につながるものと期待しています。指導奨励事業の溶接技術講習会及びオーダメイド講習会は継続していきます。

「技術・技能の高度化」については、3D 積層造形技術課題において、軽金属に関わる技術課題の情報を発信すると共に、今後の動向予測や技術テーマアップを模索しています。また、他学協会と共に教育・研究開発事業にも継続して参画し、連携していきます。さらに、自動車の補修溶接技術課題について、市場調査し溶接・接合のニーズがあれば、取り組んでいきたいと考えています。その他、FSW 基礎ハンドブックの 2025 年度発刊や ISO、JIS 及び協会規格 LWS の改定及び軽金属学会春秋大会、溶接学会秋大会及び当協会の研究成果発表会での若手技術者への表彰を継続し、軽金属溶接の普及・発展に貢献してまいります。

「構造設計での接合ニーズの明確化」は、市場拡大、技術技能の高度化の鍵と考えています。カーボンニュートラル社会での構造ニーズの変化を反映した接合技術ロードマップの改訂を進めて、2024年度末に協会誌「軽金属溶接」やホームページで発表しました。改訂版では、接合技術の議論のために、

カーボンニュートラル社会で必要になる設備,装置,構造製品について考察しました.それをもとに,アルミニウムの特徴を活かせる構造物について議論をすすめました.その成果は,アルミニウム構造の鍵となる接合技術について産学活動の道しるべになるものと期待しています.また,ロードマップの評価は今後継続し,次回改訂に生かしていきます.

「DX」については、技術関連委員会でデータサイエンスによる協会の重要課題のブレークスルーを 鋭意進めています。今年度も、当会の保有する技術データを掘り起こし、データサイエンスの適用で解 決する課題を具体化すべく継続します。このような活動を重ねて「DX 基盤」をもった軽金属接合技術 を目指します。

そして、「持続可能な協会運営」は、将来に向け足元で重要な課題です。協会のコンプライアンス、会員サービス、IT業務維持・向上のため、事務処理業務の投資など「デジタル化」を進めており、今後も継続してまいります。また2024年度から、事務局内の職員の部署配置を変更するローテーション、HPなどの利便性向上も進めており継続します。

本年度,我が国の産業や経済が回復から成長基調になることが期待されています。一方で,まだまだ 予断を許さない社会情勢や物価の高騰が挙げられます。気持ちを緩めることなく,軽金属接合技術の 中核となるべく協会運営を進めいく所存です。 以下に、本年度の事業計画の重点実施項目を示します.

1. 技術関係委員会の取り組み

「軽金属接合構造製品市場の拡大への貢献と軽金属の溶接・接合技術向上のための取り組み」

- ・データサイエンスも活用した「DX」による技術関係事業課題の解決 (中期課題)
- ・新しい接合新技術の技術基盤つくり (3D積層造形,接着など) (中期課題)
- ・超音波非破壊検査技術の軽合金への適用拡大の検討(中期課題)
- ・新しいシンポジウムや講習会の企画
- 2. 検定認定及び認証事業への取組み
 - ・軽金属溶接構造物の製造工場認定取得の促進
 - ・検定業務へのシステム改善による、効率化、平準化を継続、申込書 WEB 作成促進、WEB 申込システムの探索
 - ・持続可能な認証・認定事業のための運営組織の整備
- 3. 規格の制定および見直し
 - 3.1 ISO 規格, JIS の制定, 見直し
 - ・ISO 9606「Qualification testing of welders Fusion welding -」統合化対応
 - ・ISO 17672「Brazing-Filler metals」の JIS 化(JISZ3270 仮)の対応
 - 3.2 LWS の制定改正
 - ・ IS010042 の LWS 化検討
- 4. 2025 年度の協会活動を更に活性化する施策
 - ·会員拡大→104 社目標
 - ・協会ホームページの一部改訂
 - ・「軽金属溶接」の購読者の拡大,技術論文投稿の促進
 - ・「軽溶協の資格」3事業の認知度向上
 - ・マイスター認定制度の人材育成への活用の促進
 - ・資格認証事業のサービスの向上 (HP 会員ページの充実,)
 - ・産学官,他学協会との連携促進

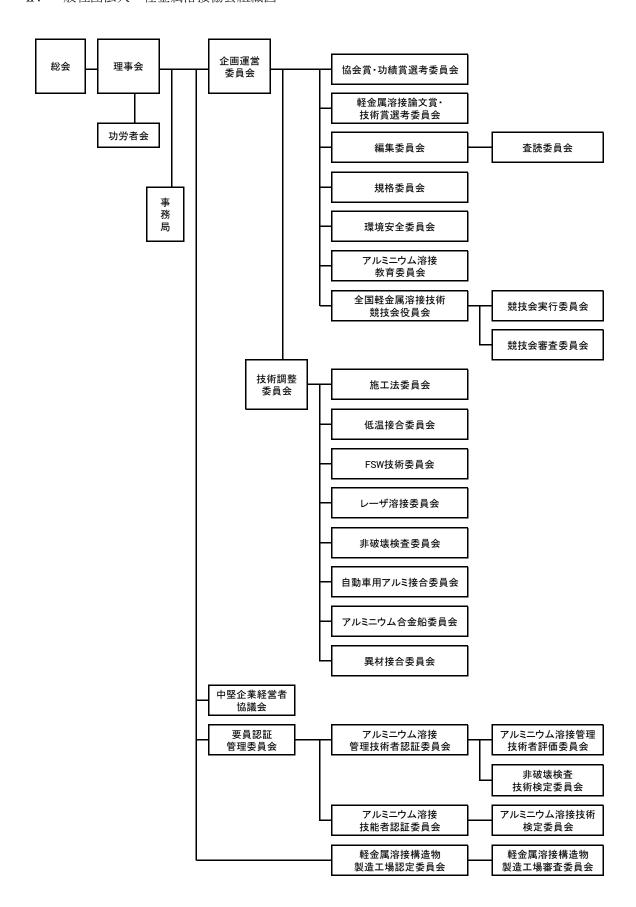
• 中堅企業経営者協議会

・年次講演大会の開催6月詳細未定・第 51 回全国軽金属溶接技術競技会の開催10月 25 日, 26 日・ろう付シンポジウムの開催秋期調整中・若手研究者ポスター表彰,研究成果報告会11月末から12月初 調整中・新年交流会(会員交流会)の開催1月詳細未定

5月,11月 詳細未定

3

Ⅱ. 一般社団法人 軽金属溶接協会組織図



Ⅲ. 委員会の委員長

功労者会 企画運営委員会 協会賞・功績賞選考委員会 論文賞・技術賞選考委員会 編集委員会 査読委員会	元 一般社団法人軽金属溶接協会会長 日本軽金属株式会社 大阪大学名誉教授 東京科学大学 名誉教授/特任教授 大阪大学接合科学研究所副所長/教授 大阪大学接合科学研究所副所長/教授	小鈴廣熊田田	紘二郎 健太 明夫 真次 学 学
規格委員会	慶應義塾大学 名誉教授	菅	泰雄
環境安全委員会 アルミニウム溶接教育委員会	一般社団法人軽金属溶接協会 大阪大学接合科学研究所副所長/教授	納田中	康弘 学
	八成八千球百年 宁明 几月面/月天/ 教汉	ш.1.	7
技術関係委員会 技術調整委員会 施工法委員会 低温接合委員会 FSW 技術委員会 レーザ溶接委員会 非破壊検査委員会 自動車用アルミ接合委員会 アルミニウム合金船委員会 異材接合委員会 異材接合委員会 全国軽金属溶接技術競技会 役員会 実行委員会 審査委員会	東京科学大学 名誉教授/特任教授 職業能力開発総合大学校 宇都宮大学大学院 教授 大阪大学接合科学研究所所長/教授 大阪大学 教授 電子科学研究所 理事 大阪大学 准教授 (国研)海上技術安全研究所 構造・産業システム系長 東京科学大学 名誉教授/特任教授 大阪大学名誉教授 日本軽金属株式会社 一般社団法人軽金属溶接協会	熊藤高藤佐藤小 岩熊 廣鈴北井井山井野岡椋 田井 瀬木野	真信善英智和智 知真 明健嘉次之匡俊一俊 明次 夫太男
中堅企業経営者協議会	菊川工業株式会社 代表取締役会長	宇津野	
検定・認定関係委員会	和川工未体八云位 一人农以种仪云区	丁件#	打茄炒
使た・認定関係委員会 要員認証管理委員会 アルミニウム溶接管理技術者認証委員会 アルミニウム溶接管理技術者評価委員会 アルミニウム溶接技能者認証委員会 アルミニウム溶接技術検定委員会 軽金属溶接構造物製造工場認定委員会 軽金属溶接構造物製造工場審査委員会 非破壊検査技術検定委員会		粉富藤佐北菅富藤川士井藤野田岡	博明信昭嘉泰正和之良之一男雄吾俊

Ⅳ. 事業計画 (2025年4月1日~2026年3月31日)

1. 会議及び委員会

1.1 会議

1.1.1 定時総会

定款第16条に基づいて開催し、事業報告書、貸借対照表、損益計算書等について審議します。 本年度は、2025年6月10日(火)に開催します。

1.1.2 理事会

定款第 31 条に基づいて開催します. 定款に定められている事項, 会務の執行に関する事項, その他会長から付託された事項などについて審議します.

1.1.3 功労者会

本会の充実と事業発展を図ることを目的として、長中期的な課題に関し、本会功労賞受賞者 及び特別委嘱の各位から大所高所に立った意見を頂きます.

1.1.4 企画運営委員会 (WP)

本会の適切な運営と事業の活性化を図るため開催し、事業計画の立案、審議、実施に当たります.

1.2 委員会

委員会は定款第37条によって設置されるもので、下記の委員会はそれぞれ担当する事項について審議・運営を行います.

1.2.1 協会賞・功績賞選考委員会

2003年度から設置された委員会で、会員により推薦された候補者からそれぞれ協会賞、功績賞を選考します. 本年度は第22回に当たります.

1.2.2 軽金属溶接論文賞·技術賞選考委員会

2008 年度の改定で軽金属溶接論文賞選考委員会・軽金属溶接技術賞選考委員会と名称を変更 し、本年度は第44回となります. 2026 年1 月に委員会の開催を予定し、2025 年1 月号から12 月号までの協会誌に掲載された論文、解説、報告などから軽金属溶接論文賞及び軽金属溶接技術賞候補を選考します.

1.2.3 編集委員会 (WH)

協会誌「軽金属溶接」の編集が主要業務です.基礎学術から最新の応用技術展開,将来展望など多岐にわたる内容を網羅してきており,会員企業の貴重な情報源となっていますので,引き続き会員企業の要望に合致した内容の情報発信が維持できるよう努力していきます.

論文や技術報告の投稿数が減少していく傾向にありますので、新たな連載、溶接技術検定・認定有資格者向けの誌面充実、セミナー、年次講演大会、軽金属溶接ポスター発表賞等との連携による最新情報の発信、重要な基礎技術を現状にあわせて掲載することなどを検討するとともに、引き続き技術委員会活動と連携した特集号の発行や国際動向の紹介などを実施し、会員へのサービス充実に務め、会員の方々に有益な誌面の発信を計画しています。

1.2.4 規格委員会 (WS)

軽金属の溶接・構造に関する技術の向上と普及を図ることを目的として、JIS、ISO 規格、協会規格 (LWS) など、規格に係わる必要事項の審議と処理を行います。また、国、公共機関ある

いは他協会などで制定する工業標準原案の作成審議に協力します. さらに, ISO 規格に関する会議にも積極的に参加し, 海外での審議などにも参加できるよう活動を進めます.

本年度は、ISO 10042 の LWS 化の進捗を管理します.

1.2.5 環境安全委員会 (WE)

アルミニウムを扱う作業者の環境管理に関する事項について、全国溶接技術競技会、施工法委員会等の技術関係委員会からの情報やデータを基に、必要な安全対策を立案審議します. 2019 年度から厚労省からの溶接ヒューム (Mn) の特化物指定に対応しています.

加えて, 今年度は, 溶接時に発生するオゾンに対する化学物質管理責任者の設置義務などの 法令改訂について, 順次対応していきます.

1.2.6 アルミニウム溶接教育委員会 (EC)

アルミニウム合金のイナートガスアーク溶接入門講座の演習問題改定と,溶接技能者評価試験の学科試験問題の更新を行います.

1.2.7 技術調整委員会 (TC)

軽金属の溶接・接合技術及びそれらの適用構造物に関する技術の進歩と技術動向を把握し、本協会会員の共通基盤技術つくりを目指して活動します.

- (1) 技術関係委員会の運営を審議し、調整・管理します.
- (2) 2024 年度に発行した技術ロードマップを中心に将来を見据えた技術関係委員会活動を推進します.
- (3) 技術関係委員会を中心に協会関係者の技術交流を目的とした年次講演大会,軽金属接合に係わる研究をしている学生の研究発表の場としての研究成果発表会を本年度も開催します.
- (4) 軽金属学会, 春期・秋期大会及び溶接学会秋季全国大会にて開催されるポスター発表において軽金属の溶接・接合に関する発表に対して審査・表彰を行い, 会員拡充や機関誌投稿を推進させます.
- (5) 各種学協会の講演会、シンポジウム及び各種展示会に参加し市場動向の把握を行い会員各位への情報発信を行います。

1.2.8 施工法委員会 (WK)

溶接技術伝承,環境・省エネルギーなどに関係する新規の開発や検討を中心に,以下の調査及び研究を,昨年度に引き続き実施します.

- (1) 規格関係の調査・規格化の検討
- (2)次期テーマの探索

1.2.9 低温接合委員会 (WL)

アルミニウムろう付技術の継承と革新に努めるべく,規格の見直しならびに講習会の開催などの包括的な取り組みを行います.

- (1)アルミニウムろう付技術講習会、シンポジウムの開催
- (2) ろう付関連の ISO 規格や JIS 見直しの対応

1.2.10 FSW 技術委員会 (FSW)

摩擦エネルギーを用いる摩擦攪拌接合(FSW)のさらなる普及拡大を目指し、基礎技術の掘下 げ、継手部の各種特性の明確化、規格化ならびに講習会の開催など包括的な取組みを行います.

- (1)次期テーマの探索
- (2) FSW 関連の ISO 規格や JIS 見直しの対応

(3)講習会用テキストの作成

1.2.11 レーザ溶接委員会 (ALW)

アルミニウム合金などの軽金属のレーザ溶接,ハイブリッド溶接および 3D 積層造形など,レーザ技術に関する調査研究ならびに最新技術情報の共有を行います.

1.2.12 非破壊検査委員会 (WN)

アルミニウム接手部の非破壊検査方法に関する規格の見直しや、最新技術情報の共有を行います.

1.2.13 自動車用アルミ接合委員会 (AAW)

自動車のアルミ化に関する各種接合技術の調査研究ならびに最新技術情報の共有を行います. 自動車の補修溶接に関する取組み、自動車への適用が見直されている抵抗スポット溶接に関する取組みや鋳物の接合に関する取組みを行います.

- (1)各種点接手の基礎特性採取、データサイエンス、シミュレーションワーキング
- (2)アルミニウム部材の補修技術ワーキング

1.2.14 アルミニウム合金船委員会 (AV)

アルミニウム合金船に関係する新規格や見直し規格の原案作成を実施します.また,規格について,他の学協会からの照会対応を担当しています.

1.2.15 異材接合委員会(JDM)

接合部の品質向上のためには、各種接合方法を適用した接合部の性能の結果を冶金的観点から評価する取組みが重要です。今期は軽金属学会内に設置され25年度に活動を開始する「異種金属接合と組織形成メカニズムによる接合信頼性検討先行研究部会」と連携を取りつつ下記の基盤的な課題の取組みを継続します。

- (1)溶接冶金に関わる基礎研究テーマの探索
- (2) 異材接合に関わる基礎研究テーマの探索

1.2.16 全国軽金属溶接技術競技会 (AWC)

2024年11月2日と3日に実施した第50回競技会で優秀な成績をおさめた方々を,定時総会当日(2025年6月10日)に表彰します.また,第51回競技会を2025年10月25日と26日に川崎市にて開催します.

1.2.17 中堅企業経営者協議会 (BE)

1983 年度に発足したもので、従業員 300 名以下の法人会員を対象とし、会員相互の情報交換、会員の体質強化、技術向上による製品の信頼性の確保などを目的に、定例的に(原則として年 2回)開催しています.

1.2.18 要員認証管理委員会 (PCC)

アルミニウム溶接技能者,アルミニウム溶接管理技術者などの要員認証の公平性を明確にするために設置した委員会で,この委員会のもとに認証委員会及び評価委員会を設けて認証活動を進めています.

1.2.19 アルミニウム溶接管理技術者認証委員会(AWQ 認証)

LWS A 7601「アルミニウム合金構造物の溶接管理技術者認証基準」に基づくアルミニウム溶接管理技術者の認証を行うために、要員認証管理委員会のもとに設置された委員会で、アルミニウム溶接管理技術者評価委員会が実施した試験結果の認証を行います.

1.2.20 アルミニウム溶接管理技術者評価委員会(AWQ評価)

LWS A 7601 に基づくアルミニウム溶接管理技術者の1級から3級までの評価試験を実施します. なお,1級管理技術者の認証方法の改正の検討を継続します.

1.2.21 アルミニウム溶接技能者認証委員会(AWA 認証)

アルミニウム溶接技術検定委員会で実施した試験結果の認証を行います.

1.2.22 アルミニウム溶接技術検定委員会(AWA 検定)

JIS Z 3811 及び LWS A 0004 に基づく,アルミニウム溶接技能者の評価試験を実施します.

1.2.23 軽金属溶接構造物製造工場認定委員会(AFQ認定)

2025年7月末及び2026年1月末を締切日として新たに申請される工場の認定を行うほか、更新及び継続申請工場の認定を行います。

1.2.24 軽金属溶接構造物製造工場審査委員会(AFQ審査)

2025年7月末及び2026年1月末を締切日として,新たに申請される工場及び認定取得後5年後の更新申請工場の実地調査による審査,並びに継続申請工場の審査を実施します.

- 2. 調査及び規格・基準の作成と普及
 - 2.1 調査
 - ・アルミニウム溶加棒及び溶接ワイヤの生産統計

JIS Z 3232「アルミニウム及びアルミニウム合金の溶加棒及び溶接ワイヤ」に規定されている溶加棒及び溶接ワイヤの生産統計は、指定統計として把握されていないので、生産会社の協力を得て自主統計として毎月合金別に集計し、協会誌に掲載するなどの方法により情報を提供します.

- 2.2 規格・基準の作成
 - ・規格委員会の項参照
 - ・ISO/TC44 に対する協力

ISO/TC44(溶接)の審議委員会を我が国では(一社)日本溶接協会の規格委員会が当っており、本協会ではこれに出席して関係規格の審議について協力します.抵抗スポットを含むその他接合に係わる「SC6 関連小委員会」への参加を継続します.

・ISO/TC135 に対する協力

ISO/TC135(非破壊試験)の審議委員会を我が国では(一社)日本非破壊検査協会のISO委員会が当っており、本協会ではこれに出席して関係規格の審議について協力します.

・ISO/TC58 に対する協力

ISO/TC58(圧力容器)の審議委員会を我が国では(一社)高圧ガス保安協会が実施しています。本協会ではこれに出席して、主に複合容器に関する規格の審議について協力します。

・ISO/TC79 に対する協力

ISO/TC79(軽金属及びその合金)の審議委員会を我が国では(一社)日本アルミニウム協会 規格委員会が実施しています。本協会ではこれに出席して、素材規格の審議について協力します。

3. 技術の検定・認定

・アルミニウム溶接技能者評価試験

全国 25 箇所の定期試験会場で合計 48 回実施します。また、申込みによりその他の場所でも適時、試験を実施します。

鉄やステンレス溶接の資格を持ちアルミニウム溶接の資格を持っていない方の掘り起こしや、 各県の教育訓練施設及び検定試験会場として利用している厚労省所管施設との協業によって受験者の増加を目指します.

·溶接管理技術者資格認証試験

アルミニウム溶接管理技術者認証試験を,2025年9月及び2026年2月に実施します.

・軽金属溶接構造物の製造工場認定

2025年7月末及び2026年1月末締め切りで2回の新規申請工場に対し認定業務を行います. また,新規認定又は前回更新以来,5年を経過した工場に対しては審査の上,2025年10月及び2026年4月に更新認定を行います.

4. 技術の指導・奨励・普及

4.1 協会賞,功績賞

第21回の表彰式(2024年度)を6月の定時総会において行います.

4.2 軽金属溶接論文賞,軽金属溶接技術賞

第43回の表彰式(2024年度)を6月の定時総会において行います.

4.3 軽金属溶接マイスター

第17回の表彰式(2024年度)を6月の定時総会において行います.

4.4 講演会・シンポジウム・研究発表会

技術関係委員会を中心に、会員および次世代を担う軽金属接合の研究に携わる学生の技術交流を目的として、研究成果発表会を開催します。また、特別講演、技術関係委員会の成果報告を中心とした 2025 年度年次講演大会を企画開催します。2025 年度はろう付けシンポジウムを開催します。更に安全に関する講習会を日本溶接協会と共同開催します。

4.5 講習会

・実技を主体とした溶接技術講習会

実際に溶接を行う人及びその指導者を対象に,前年と同様の豊中市(大阪府),静岡市(静岡県),神戸市(兵庫県),合志市(熊本県),川崎市(神奈川県)にて,第474回から第482回まで9回の講習会を開催します.

なお,講習会はティグ及びミグ溶接について,JIS Z 3811「アルミニウム溶接技術検定における試験方法及び判定基準」に基づく評価試験に対応した板厚で 4 コースが設定されており,全く経験のない人でも4日間(応募人数によっては3日間集中)の講習を積めば評価試験の基本級の受験資格が与えられます.また,修了証書を取得した人は,検定試験における学科試験が免除されます.

溶接管理技術者資格認証講習会

軽金属の溶接技術者として指導者となりうるための知識の取得と管理能力の向上を目的に, 2025年8月末に東京で講習会を実施します.

・アルミニウム溶接技術入門講座

新しくアルミニウムの溶接を行いたい者,新規の溶接作業者の教育に力を入れる事業所,一般の常識としてこれらの知識を得たい者などを対象として,溶接技術全般及び溶接技能者評価

試験の受験を目的としたオーダーメイド講習会を, 求めに応じ各地で実施します.

・FSW 技術及び実技講習会

今後,ますます製品適用範囲が広がると予想される FSW(摩擦かくはん接合)の技術者ニーズに対応すべく, FSW 技術及び実技講習会開催を念頭にテキストの編纂を行い,若手技術者育成プログラムとして開催を目指します.

・アルミニウムろうシンポジウム本年度はろう付シンポジウムを企画・開催予定です。

4.6 全国軽金属溶接技術競技会

本競技会は、軽金属溶接に携わる溶接作業者の技能向上を図り、溶接構造物の品質性能の高度化に寄与させるため、アルミニウム溶接技術検定が開始されてから10年を迎えたのを機会に、工業技術院、労働省などの後援を得て、1975年に第1回が開催されました。本競技会の優勝者、準優勝者は厚生労働省「ものづくりマイスター認定対象要件」に加わりました。

本年度は,第51回競技会を2025年10月25日と26日に川崎市で開催します。また,昨年実施された第50回競技会の表彰式を6月の定時総会の同日に行います。

4.7 出版物等

•協会誌 "軽金属溶接"

協会誌「軽金属溶接」は、前身の軽金属溶接技術会設立当初から技術月刊誌として発行され、 論文、技術報告、講座、解説、報告、統計、委員会報告などを掲載しています。本年度は、通巻 748 号から 759 号までを発行する予定です。

• 刊行物

FSW 講習会テキストの発行を予定しています.

· 協会規格 (LWS)

協会規格が制定又は改正された場合には電子媒体で発刊します.